

公民館かながわ



藤沢市藤沢公民館・労働会館等複合施設（愛称 F プレイス）

目次

令和元年度総会	2
令和元年度 公民館館長・職員等研修会	3
平成30年度 優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)	4
川崎市中原市民館 平塚市立須賀公民館	
わが館では	5
川崎市多摩市民館 伊勢原市立中央公民館	
サークル紹介	6
『あやせけん玉クラブ』 (綾瀬市立寺尾いずみ会館)	
『ハンドベルアンサンブル ティンカーベル』 (厚木市立玉川公民館)	
全国公民館セミナー	7
公民館総合補償制度	8
表紙写真解説 藤沢市藤沢公民館・ 労働会館等複合施設	8
編集後記	8

県公連事業報告

「令和元年度神奈川県

公民館連絡協議会総会」

令和元年度の総会が、5月31日（金）に出席者27名（委任状21名）のもと、秦野市立堀川公民館で開催されました。

森副会長の開会の言葉に続き、木下会長の挨拶がありました。

ご祝辞は、神奈川県教育委員会教育局生涯学習部生涯学習課長高梨様、秦野市文化スポーツ部長佐藤様のお二人から頂きました。議事は、秦野市生涯学習課長五味田様の議長のもと、進められました。

議案では、平成30年度の事業及び収支決算・監査の報告がなされ、承認されました。また、令和元年度の事業計画案、予算案、役員について承認されました。

今年度の年間活動テーマについては、平成30年12月21日に報告されました中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」で、地域における社会教育の目指すものとして「社会教育」を基盤とした「人づくり」「つながり

りづくり」「地域づくり」が掲げられ、公民館に求められる役割として「学習の成果を地域課題の解決のための実際の活動につなげていく役割」や「地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割」など、7つの役割があげられたことから、主題を「これからの時代に求められる公民館像とは？」、副題を「公民館をネットワークの基点とした新しい『人づくり』『つながりづくり』『地域づくり』の展開」とし、年間活動していきます。



秦野市立堀川公民館に於いて

令和元年度事業については、公民館館長・公民館運営審議会委員等研修会をハーモニーホール座間において、令和元年11月8日（金）に開催します。

また、第61回神奈川県公民館大会を愛川町文化会館ホールにおいて令和2年1月17日（金）に開催します。皆様の参加をお待ちしております。

なお、引き続き、神崎節生氏が、木下会長から顧問に委嘱されました。

令和元年度の役員及び常任理事（部会長・副部会長）を紹介します。

【役員】

会長 木下 敬之

（学識経験者）

副会長 夏井 美幸

（川崎市教育委員会

生涯学習推進課）

〃 森 政則

（学識経験者）

〃 藤嶋 直司

（相模原市立相原公民館館長）

監事 中山 耕造

（神奈川県社会教育協会

事務局次長）

〃 石井 亨

（茅ヶ崎市教育委員会

社会教育課長）

顧問 神崎 節生

（学識経験者）

【常任理事】

総務・広報部会長 宮館 政幸

（川崎市多摩市民館館長）

〃 副部会長 森 徹

（藤沢市立藤沢公民館館長）

公民館経営・研修部会長 鈴木 啓太

（相模原市教育委員会

生涯学習課主事）

〃 副部会長 小林 光男

（座間市公民館主査）

大会部会長 内山 保夫

（愛川町文化会館副主幹）

〃 副部会長 一寸木 貞夫

（箱根町社会教育センター館長）

（県公連事務局）



役員及び常任理事の紹介

令和元年度 公民館館長・職員等研修会

「公民館をネットワークの基点とした
「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の展開」

令和元年度公民館館長・職員等研修会が、5月31日(金)に、秦野市立堀川公民館で開催されました。今年度の講義では、現在の社会教育施策の動向から、今後社会教育が目指すべき方向性についてご教示いただきました。

【講義】

「これからの時代に求められる公民館像とは？」

東海大学 課程資格教育センター 教育学研究室講師

古里 貴士氏

はじめに、先生は大学で学生達と接する中で、「自己紹介」が青年期における学びの課程として大切であることを話されました。ここで言う自己紹介は、自分の情報を知らせるだけでなく、内側の自分が何を考え、何をしたいのかを伝えるものであるとの内容です。

次に、公民館を取り巻く社会情勢の変化から、公民館が抱えるいくつかの課題についてお話いただきました。一つは、近年、都市型公民館、農村型公民館の違いによって、一つの解を求めることが難しい時代になってきていること、

また、若者が公民館から離れた背景として、公民館が全国的に建設され始めた頃は、義務教育課程を卒業した後のいわゆる「勤労青年」が、時には娯楽を求め、時には学び直すための施設として利用していました。全国的な進学率の向上により求められるニーズに変化が生じてきたことを挙げられました。

さらに、地方消滅論の登場により、人口減少をいかに抑えるかが自治体にとって最大の懸案事項となったことは、地域課題を掘り起こし、解決策を考える役割を担う公民館にとっても、活動の意義を見直す必要性が出てきたと考えられます。

そのような情勢の中で、住民自治の醸成に熱心に取り組む事例として、長野県阿智村が紹介されました。阿智村では、村民に学習するための補助金を用意するほか、村民全体を巻き込んだ社会教育研究集会を実施する中で、社会教育を基点とした住民自治が築かれていくとのことでした。

講義の後半では、主に若者が社会教育に触れる機会をいかに確保

していくかといった題材をもとに、公民館が本来備えるべき機能や役割についてお話がありました。戦後、公民館が建設される中で、市町村単位での自治振興という視点から「地域づくり」、「産業振興」が進められ、寺中作雄の言葉を借りれば、「青年の要請にもっとも関心をもつ機関」としての存在が想定されていきました。そのような時代背景から鑑みれば、単なる教育施設としては語れない、市町村民の生活を支えるための学習施設として認識されていた側面があると言えます。ところが、昨今では、公民館をイメージするものがない浮かべづらく、漫画や映画などの題材として出てこないことや、中



古里 貴士氏

学生、高校生の中に、公民館を使ったことがない、存在を知らない「青年たち」が多く存在し、存在は知り得ても中に入っていないのか分らない「敷居の高い施設」として認識されているとのお話がありました。本来、公民館には、人々が様々な場所で学び合う自己教育、相互教育を保障するという意義があり、例えば、ロビーにふらっと立ち寄り、社会との繋がりが途切れてしまった人たちが気軽に繋がれる場となるような環境作りには、古くから公民館職員は自然と取組んでいたと考えられます。社会教育の枠を抜けて捉えれば、博物館、図書館、公民館といった施設の区分けなどなく学び合えるはずのお話をいただきました。

そして、まず学びが保障され、その次に、学びを豊かにする役割を果たす公民館が存在するという先生のお言葉には、題材にもあるとおり、公民館が目指すべき学びの「つながり」の基点としての役割があると感じました。

最後に、発言の自由とは、たとえうまく発言できなくとも許容される環境こそが本当の「自由」であり、公民館はそのような環境を作り上げてきたとの先生のお言葉は、公民館に携わる職員として大切にしなければならぬ理念であると感じました。

表彰館の紹介

優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)

川崎市中原市民館

優良公民館表彰受賞の翌日に、さつそく賞状を額に納め、記念の楯とともに利用者受付カウンターの壁に掲出したところ、多くの皆様から喜びの声と励ましの言葉をいただきました。市民館がこのように皆様から愛着を持たれ、日頃から関心をお寄せいただいておりますことに、改めて驚きと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

中原市民館は、川崎市内7区に、分館を含め計13ある市民館施設の一つとして、市のほぼ中央部に位置する中原区に在ります。周辺のまち並みは、文献によれば、古くは江戸時代初頭の慶長年間に、徳川家康の命により多摩川のほど近くに本陣を建て、また、用水路開削のための陣屋を設けたことに由来する、小杉御殿町や小杉陣屋町といった地名が今も残ります。

対照的に、JR線と私鉄が交わる武蔵小杉駅周辺は、かつては大規模な工場群の広がる広大な敷地でしたが、再開発により僅か10年余りで、10棟を超えるタワーマンションが建ち並ぶまちに変身を遂げました。併せて、商業施設も建設されたことで、年々人口の増加が続いています。

このように中原区は、歴史のあるまち並みと長年そこに住まう人たち、そして新たに誕生した高層マンション群で新生活を始めた人たちが一緒に暮らすまちです。

多様な環境の中で市民ボランティア活動も盛んで、赤ちゃんから高齢者まであらゆる世代の人たちが集い助け合えるまちづくり、そして、識字学習活動・日本語学級の実施や交流など、外国人市民にも安心して暮らせる多文化共生社会の実現をめざしています。

中原市民館にとりまして、社会教育そして生涯学習の推進・支援施設として果たすべき役割は益々大きくなっており、職員一同、今回の受賞を励みに一層の努力と工夫を重ね、支援・協力をいただいている市民、利用者の皆様とともに歩んでまいりたいと思います。



クリスマス会に向けて各国お国自慢料理を調理する日本語学級受講生の皆さん

(館長 吉越 厚善)

平塚市立須賀公民館

須賀公民館は平塚市の南東部の海岸エリアに位置します。昔から水産業が盛んな地域です。

須賀公民館では地域資源であるこの水産業に注目し、地域の方に魅力を伝えたいといくつかの講座を実施しています。

そのきっかけとなったのが、家庭教育学級の「親子でさばき方教室」です。この教室は親子を対象に地元で水揚げされたアジやサバをさばき、食べるという内容です。講師は平塚市漁業協同組合と地産魚の提供を行う地元飲食店にお願いしました。

はじめは恐る恐る魚に触れていた子どもたちも何匹かさばくうちに一人でできるようになります。最後には家に持って帰ってさばきたいと保護者を困らせる子どもがいました。



親子で魚をさばいている様子

教室の後半では、処理した魚を飲食店の方に調理してもらい全員で試食します。こんなに美味しい調理法があったのかという新しい発見がありました。

このさばき方教室をきっかけとして平塚市漁業協同組合をはじめ、水産業関係者等との繋がりができ、事業の幅が大きく広がりました。

昨年度は、地曳網を体験する講座や海岸での親子燻製教室、丘陵地区にある土屋公民館区域の親子と海と山の魅力を体感する交流事業など、いずれも水産業関係者の協力のもと実施しました。

また、水産資源の保全という観点から長年実施している事業があります。自治会と地元の信用金庫と共催して行う「相模川クリーンキャンペーン」です。5月と11月の2回、平塚八景に指定されている湘南潮来周辺の清掃を行っています。ゴミを拾うことによって、地域資源の保全を図るとともに、地域への愛着を深めるための重要な事業となっています。

今回の受賞では、これらの地域資源の活用と保全が評価されたと考えています。

そして、今回の受賞を受けて、これまで以上に地域に着目した事業を実施し、故郷を誇れる人間の育成につなげていきたいと考えています。

(社会教育主事 千葉 貴英)

わが館では・・・

川崎市多摩市民館

多摩市民館の前身は、稲田公民館という名称で昭和26年10月に開館しました。その後、多摩公民館への名称変更を経て、昭和47年9月14日に閉館し、その翌日に多摩市民館がオープンしました。

平成8年度には、区役所、市民館、図書館、保健所、休日夜間急患診療所及び薬事センター等の機能を併せ持つ「多摩区総合庁舎」が完成し、その内2階から5階まで利用する多摩市民館は、多くの方々に親しまれています。わが館がある多摩区は、多摩川や生田緑地などの豊かな自然に恵まれ、また、「岡本太郎美術館」や「日本民家園」、「藤子・F・不二雄ミュージアム」、「かわさき宙（そら）と緑の科学館」等の数多くの博物館等が存在し、専修大学、明治大学、日本女子大学が立地しているなど、「水と緑と学びのまち」として、豊かな学習環境が整っています。

【たまたま子育てまつり】

全館を活用した事業「たまたま子育てまつり」は、多摩区内にある子育て支援団体、市民グループ及び関係行政機関が参画する「多摩区子育て支援会議」から生まれた実行委員会形式のおまつりです。

多摩区で安心して子育てができる地域の環境づくりと生涯学習の推進を目的としており、第16回となる平成30年度は、9月16日（日）に開催し、約4,500人の方々が来場しました。

当日は、まつりの趣旨に賛同した42団体が参加し、「たのしく子育て みんなで笑顔」をテーマに、スタンプラリーを始め、親子工作、親子劇場、親子体操など、親子で楽しめるブースを多く取り入れて実施しました。大ホールで行ったクラウンのファミリショーは、908席の会場がほぼ満席になるほどに盛況でした。そのほか、子育て相談、子育てサークルの活動紹介や各種イベントなど、子育て等に関する情報提供を行いました。今後も区民の交流及び学びの場として、多くの方々に来館いただきたいと考えています。



たまたま子育てまつり

(館長 宮館 政幸)

伊勢原市立中央公民館

わが館、伊勢原市立中央公民館は、前身の伊勢原市立伊勢原公民館に代わる、新たな公民館ネットワークの中心施設として、平成30年10月に開館しました。

小田急線伊勢原駅北口から、大山参拝のスタートラインでもある一ノ鳥居をくぐり、中央通りへ進んで、徒歩約10分。鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）の地下1階、地上4階の建物は、曲線を多用したモダンな外観で、伊勢原にふさわしい生涯学習を推進する総合的な社会教育施設として、また、市内六地区公民館の中枢機関として市民に親しまれています。展示ホール、会議室、学習室や図書室等のほか、音楽実習室、料理実習室や美術工芸室など充実した活動の場を用意しており、美術工芸室にある陶芸窯では、これまでに市民の方による多くの陶芸作品も生まれています。

【いせはら市展】

いせはら市展は、市民の方に文化芸術の創作活動を発表する場と気軽に作品を鑑賞する機会を提供することを目的に、毎年当館で開催しています。第24回となる今年度は、前期には絵画・版画・彫刻の部、後期には書・写真・陶芸・工芸の部として約230点、高校生を含む約150人の方々からの出

展をいただきました。作品はすべて専門家に講評をいただき、優秀な作品には、市長賞、議長賞、教育長賞を授与。入選以上の作品は会場に展示し、展示期間中には1700人を超える来場者がありました。また、市展の開催にあたっては、実行委員の他、多くのボランティアにご協力いただき盛大に開催することができました。



展示の様子

【有料化の開始】

さて、そんなわが館も、とうとうこの7月1日から有料化が始まりました。昨今では、有料化を実施している公共施設も多く、当市の実施は近隣市で見ても決して早いものではないのですが、今まで無料で提供してきた場所を有料にするということについては、やはりいろいろな思いがあります。市民団体の皆さんからいただく貴重な使用料をどの様に活かすのか。施設の維持管理に、そして伊勢原市の生涯学習の普及に、今まで以上に心して向き合っていく必要があると感じています。

(係長 塩田 麻美)

サークル紹介

『あやせけん玉クラブ』 綾瀬市立寺尾いずみ会館



集合写真

あやせけん玉クラブは2016年に中央公民館が主催した講座の受講者が中心となって立ち上げたサークルです。指定管

理者 株式会社オーエンスによる、綾瀬市立公民館等自主サークル活動支援事業『にこにこ活動支援事業』の支援を受け、活動しています。

月2回、日曜日の練習会では、小学生から高齢者まで幅広い年齢の男女が10名程度集まり、綾瀬市生涯学習人材バンク登録者で日本けん玉協会指導員の指導のもと、アドバイスを受けたり、お互いに教えあったり、励ましあったり、難しい技が初めて決まった時の歓声が聞こえたりと、楽しく和やかに練習しております。

練習会では毎回、段級位の認定試験も行っています。合格すると認定証が発行されるため、皆が、

一つでも上の級を目指して練習に励んでいます。先日の試験では初めての有段者も誕生しました。

最近では世界的な広がりを見せているけん玉ですが、単なる昔遊びではなく、奥の深い競技であり、全身の動きと高い集中力が必要な生涯スポーツでもあります。上級者は実現不可能としか思えない技を平然と繰り返し出しますが、それも日々の練習の結果であり、初めてけん玉に触る人でも、コツコツ練習しているうちにできる技が増え、いきま



練習の様子

す。とはいえ、ひたすら練習ばかりをしているわけではなく、各自のペースで疲れたら休憩し、年齢の離れた友人たちのおしゃべりに興じています。このことは、体力や筋力に関係なく楽しめるけん玉のサークルの魅力の一つかと思えます。子どもは同世代のライバルを意識しながら、大人は後から入った子どもたちに追い抜かれながらも、あせらず、あわてず、あきらめず、の精神でこれからも活動していこうと思えます。

(代表 渋谷 博司)

『ハンドベルアンサンブル

ティンカーベル』

厚木市立玉川公民館

ハンドベルアンサンブル ティンカーベルは、平成10年4月に厚木市内の幼稚園の保護者を中心に結成し、現在女性10人で、毎週木曜日に玉川公民館で活動しています。



玉川公民館での練習会

緊張感を持ちながらも笑顔が絶えない、温かい部活のような和やかな雰囲気の中、4オクターブのイングリッシュハンドベルを使って、練習に励んでいます。

ハンドベルといえばクリスマスやポップスまで、様々なジャンルに挑戦しています。

昨年の主な活動内容としては、市内2ヶ所の公民館、地域包括センター、市内病院での演奏と、結成20周年を記念するコンサートも開催しました。



コンサート会場にて演奏を終え、
会心の笑顔のメンバー一同

タイミングよく自分の音を出し、前後の音をつなげて一つ一つのフレーズを皆で力を合わせて曲として仕上げた時の喜びは大きく、何年経ってもハンドベルの奥深さに魅せられています。

「ハンドベルの響きに癒された」「心が洗われた」など、演奏を聴いていただいた皆さまからの、たくさんのお言葉を励みに、これからも一つ一つの音を大切に、演奏を楽しんでいきたいと思えます。

(代表 葉山 みどり)

第30回全国公民館 セミナーに参加して

藤沢市生涯学習部

生涯学習総務課

主幹兼社会教育主事 井出祥子

全国公民館セミナーは、公益社団法人全国公民館連合会の主催により、公民館職員として必要な専門知識や技能を習得することを目的に開催されているものです。

平成30年度は、新しい公民館像を探るため、公民館ばかりが頑張るのではなく、地域住民が自然に集まり、主体的に活動を展開するには、どのような仕組みづくりが必要か、ということについて学ぶことを目的に、平成31年1月30日（水）～2月1日（金）の3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開催され、全国から102名が参加しました。



牧野氏による講義の様子

1日目は開講式に続き、東京大学教授の牧野篤氏を中心に、コミュニティデザインナーの出野紀子氏、那覇市繁多川公民館館長の南信之介氏、文部科学省地域学習推進課長の中野理美氏とのセッションが行われました。

出野氏とのセッションでは、「もっと人が集まる公民館を！」をテーマに、出野氏が運営する私設公民館「Co・Minkan」が実践するまちのお茶の間づくりの可能性が語られ、課題解決型から循環型へと公民館のあり様を変えていく考え方に、非常に共感を覚えました。

次に、南氏とのセッションでは、「公民館の可能性とグローバル化」をテーマに、ローカルで完結しない公民館のあり方が語られ、グローバルな視点を取り込むことで、公民館の可能性に気づくことの大切さを学ばせていただきました。

最後に、中野氏とのセッションでは、「これからの公民館のありかた」をテーマに、平成30年12月に出版された中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」における国の考え方が示され、公民館を教育委員会から首長部局に移管する自治体が増加する中、公民館の役割が議論されました。

1日目の後半と2日目の前半は、牧野氏の集中講義が行われ、「公民館を地域づくりの基盤に」をテーマに、「はざま」を埋める「間」の役割が公民館に求められているということ、また、いかに公民館を社会の中に埋め込むか、ということについてお話しいただきました。

社会教育が一般行政を支える基盤（底）であるということ、そして、一般行政に社会教育・生涯学習を浸透させるといってお話は、社会教育職員として、非常に心強いお言葉でした。

2日目の後半は、「人があつまりたくなる公民館運営のしかた」について、（特非）きらりよしじまネットワーク事務局長の高橋由和氏から、地域が自立するまでのステップや、地域づくりに必要なネットワークシステムについてお話しいただいた後、グループに分かれてワークショップを行いました。

3日目は、文部科学省の優良公民館表彰で、最優秀館となった歴代の公民館の職員の方々一堂に会され、「人が集まる公民館運営」をテーマに、各館の実践をお話しいただきました。

福井市社北公民館主事の田中典子氏からは、「チャオカード作戦（いっちゃお・やっちゃお・あつめっちゃお）」を通じたまちづくり活動について、大竹市立玖波公民館の河内ひとみ氏からは「学びのカフェ」がひとやまちを変えたことについて、那覇市若狭公民館長の

宮城潤氏からは、様々な事業にチャレンジしたことから生まれた、人が集まる公民館の6つの極意を発表していただきました。

3館に共通して感じたことは、職員自身が楽しみ、そして、地域資源を自ら発掘し、つなげるところまで丁寧に住民に寄り添ったことでした。企画力の向上はもちろんです、公民館は「ヒト」が財産であるということを感じました。



お笑い芸人による司会進行の様子

新しい試みとして、お笑い芸人さんを司会進行（MC）に起用したり、ライブを講義後に開催したりしたことで、「公民館は楽しい」という原点を、あらためて考えるきっかけになったように思います。変わろうとする公民館を垣間見ることができた、非常に有意義なセミナーでした。

公益社団法人 全国公民館連合会

2019年度 (2019年5月1日~2020年5月1日)

公民館総合補償制度

本制度は、公益社団法人全国公民館連合会(全公連)の制度です。市町村の公民館および自治公民館、また社会教育法に定める「公民館の目的」に寄与する施設等で公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたものは、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された施設もご加入いただけます。

3つの補償で公民館活動をサポート

1. 行事傷害補償

【災害補償保険(公民館災害補償特約、新中込型補償特約)・見舞金制度】

保険

- 公民館行事参加者のケガを補償
- 公民館利用者のケガを補償
- 行事後復讐上のケガを補償
- 行事の事前練習や事前準備、後片付けでのケガを補償
- 食中毒や熱中症を補償

見舞金制度

- 急性疾病に、死亡弔慰金、入院見舞金をお支払いします。
- 特定災害により公民館建物やその収容物等に損害が発生した場合に、見舞金をお支払いします。

【補償例】



●卓球大会参加者が転倒して負傷。

2. 賠償責任補償

【賠償責任保険(施設所有管理者特約、見舞金特約)】

保険

- 公民館の施設・設備等*の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、財物を損壊したことにより、公民館が法律上の賠償責任を負担しなければならない場合に補償

- *公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。
- 建設に際する昇降機(エレベーター、エスカレーター)の所有、使用、管理に起因する賠償責任も含みます。

【補償例】



●エレベーターの操作ミスで乗客が負傷し、行事参加者の車を破損。

3. 職員災害補償

【普通傷害保険(就業中のみの賠償補償特約)・見舞金制度】

保険

- 公民館事業や業務に携わる方の公民館業務中のケガを補償

見舞金制度

- 公民館事業や業務に携わる方の病気や業務外のケガ、業務中の地震によるケガに死亡弔慰金や入院見舞金をお支払いします。

【補償例】



●職員が業務中に廊下から転落して負傷。

公民館総合補償制度の特長

(1) 補償範囲や対象者が広い、公民館専用の制度です。

●全公連が運営する「見舞金制度」に「保険」を組み合わせた公民館や類似公民館の専用の制度で、安心して公民館活動を行っていただけるよう幅広い補償になっています。

★行事傷害補償制度のここがおすすめ★

- 日本国内であれば行事の場所は問いません。 ※別に定める危険な運動中等は対象外です。
- 行事参加者や利用者の居住地は問いません。
- 公民館公認のサークル活動参加者や有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- 公民館が他の団体等の行事に派遣する行事の参加者も補償します。
- 習習をともなう行事も対象です。

(2) 年1回の手続きで安心です。

●年1回の手続きで年間の主催、共催行事が対象になり、個別の行事の通知は不要です。うっかりして保険の手配を忘れる心配がありません。

(3) 掛金の割引制度もあります。

- 同一市町村内で10館以上まとめて加入されると、行事傷害補償の保険料と見舞金制度掛金に割引が適用できます。
- 職員災害補償の保険料には、団体割引25%、過去の損害率による割引25%を適用しています。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「2019年度版マニュアル-公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー総合補償サービスまたは損保ジャパン日本興亜までお寄せください。

■損害保険会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
営業開発部第三課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL 03-3349-3820 FAX 03-6388-0157

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)
エコー総合補償サービス株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-9
TEL : 0120-636-717 (通話料無料)
FAX : 0120-226-916 (通話料無料)

(5.1N15-42025)作成日 2018年12月26日 [18124-06]

編集後記

令和初の「公民館かながわ」はいかがだったでしょうか。公民館館長・職員等研修会の記事のように、公民館を使ったことがない、存在を知らない「青年たち」が多く存在する昨今、9つの施設・機能を持つ複合施設の藤沢公民館(表紙)は、様々な要件で訪れた方々に、広く受け入れられることでしょうか。

この度、寄稿いただきました各施設の皆様から感謝申し上げます。

【総務・広報部会】

宮館 政幸(川崎市)、森 徹(藤沢市)

杉山 由広(厚木市)、塩田 麻美(伊勢原市)

青柳 典子(綾瀬市)

榎田 和哉(中教育事務所)

鈴木 智久(事務局)

表

紙

藤沢公民館は再整備プランに基づき、老朽化した旧藤沢公民館を建て替え、藤沢地区の拠点施設として2019年4月1日にオープンしました。施設は藤沢市藤沢公民館・労働会館等複合施設で愛称はFブレイスです。

施設の特徴としては、藤沢公民館や労働会館を含めた近隣の9つの施設・機能を持ち、市内初めての複合施設で、災害時の防災拠点施設でもあります。

地域の多くの皆さまにご利用いただき、愛される施設を目指してまいります。

☆生涯学習の活動の場

藤沢公民館の機能や市民図書室が移転したほか、生涯学習活動推進室が新たにオープンしました。

☆「働く」をサポートします

ユースサポート・ユースワークふじさわが移転したほか、雇用労働相談室が設置されました。

☆地域福祉の相談ができます

藤沢西部いきいきサポートセンター、地域生活支援センターおあしす、藤沢西部地区ボランティアセンターがオープンしました。

☆子どもたちの笑顔が広がります

藤沢子どもの家、放課後児童クラブが入りました。多世代間交流のためのスペースもあります。

☆幅広い用途で利用できます

ホールや会議室、多目的交流ホール(体育室)・調理室・和室などがあります。

住所 藤沢市本町1丁目12番17号

開館時間 8時30分から22時まで

休館日 1月1日から4日

年末年始(12月28日から31日、1月1日から4日)

電話 0466-22-0019
FAX 0466-22-0293

https://fujisawa-place.com